

世代間 意識のずれ大きく



東京経済大名誉教授

(社会学、社会史)

桜井哲夫さん

「平成」とはどんな時代だったか。そして新たな時代を、私たちはどう迎えるべきか。足利市在住で東京経済大名誉教授(社会学、社会史)の桜井哲夫さん(69)に聞いた。

(聞き手・戸丸由紀子)

日本が平成に入ってから間もなく、世界では東西冷戦が終わった。1980年代から始まっていた「グローバル化」が一気に広がった。90年代半ばからインターネットが普及したことも、社会を激変させた。世界中の情報を瞬時に手に入れることが可能になり、文化が均一化された。各地でそれに反発するナショナリズムも生まれた。

しかし、ある年齢以上の人はそんな世界の変化や特殊性を理解せず、意識が追いついていかない。意識のずれが大きくなることが「世代交代」の難しさだ。

平成が始まった30年前とは地域社会も大きく変わった。お年寄りは長生きし、子供が

少なくなった。これからの地域社会は、60歳以上の人にとって地域で活躍してもらうか、まちを元気にするネットワークや構造を行政が作っていいか。それが、問題になると思う。

今年、天皇陛下が退位され、新しい時代になる。どのような時代になっていくのか予測するのは難しい。

ただ、平成の30年間に予測もできなかったスピードで世界が激変したことを考えても、世代や時代を超えて物事を進めていくには、政治、教育、インフラと様々な分野で長期的なプランを段階的に作っていくことが必要だ。そうでなければ場当たり的な対応で終わってしまう。